



ぶたいげいじゆつどうそうごう しえんじぎょう がっこうじゆんかいこうえん
 舞台芸術等総合支援事業 (学校巡回公演)
 どくりつぎょうせいほうじん にほんげいじゆつぶんか しんこうかい
 独立行政法人日本芸術文化振興会

れいわ ねんど がっこうじゆんかいこうえん
 令和7年度 学校巡回公演

のう がく こう えん
能楽公演

のう やく しゃ
能の役者になってみよう！

いっばんざいだんほうじん のうがくどう かしょうかく
 一般財団法人 **能楽堂 嘉祥閣**

がっこうじゆんかいこうえん
「学校巡回公演」

ぜんこくしょうがっこうちゆうがっこうとう
 全国の小学校・中学校等においてトップレベルのぶんかぎゆつだんたい
 文化芸術団体によるじゆんかいこうえんを行うことを通じて、しやうらいにな
 将来を担うすべ
 こどもゆたかなかんせいほくくぼつつかいじゆつかんしやうのうりよくこうじやうはかぶんかてきちいきかくまかいしやうそくしん
 ての子供たちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進する
 ことを目的としています。

ワークショップでは、こどもじつえんしどうまたかんしやうしどうおこな
 子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加でき
 る工夫を行います。

敦盛

あつ もり
 「前シテ」 草刈男 「後シテ」 平敦盛
 「ワキ」 蓮生法師 「ツレ」 草刈男
 「間狂言」 里人

ワキ「これは、武蔵の国の住人。熊谷の次郎直實出家し蓮生、法師にて候。これより、一の谷に下り。敦盛の御跡弔ひ申さばやと、思ひ候。」

ツレ「草刈笛の聲添へて。草刈笛の聲添へて吹くこそ野風なりけれ。」
 地謡「草刈笛の聲添へて。吹くこそ野風なりけれ。」

ワキ「いかにこれなる草刈達に申すべき、事の候。」

シテ「此方のことにて候か、何事にて候ぞ。」

ワキ「只今の笛をば面々の中に、吹き給ひて候か。」

シテ「さん候我等が中に、吹きて候。」

ワキ「その身にも応ぜぬ業を、たしなみ給ふ事。返す返すも、やさしうこそ候へ。」

シテ「その身にも応ぜぬ業と、承れども。それ勝るをも、羨まざれ。劣るをも賤しむなとこそ、見えて候へ。その上樵歌、牧笛とて。」

ツレ「草刈の笛木樵の歌は。歌人の詠にも作り置かれて。世に聞えたる笛竹の。不審ななさせ給ひそとよ。」

ワキ「げに面白き答えかな。さてさて樵歌牧笛とは。」

シテ「草刈の笛。」ワキ「木樵の歌は。」

シテ「憂き世を渡る一節を。」ワキ「謡ふも。」

シテ「舞ふも。」ワキ「吹くも。」シテ「遊ぶも。」

ワキ「いかに、申し候。余の草刈達は皆々、御歸り候に。御身一人、残り給ふこと。何の故にて、あるやらん。」

シテ「何の故とか、夕波の。声を力に、来たりたり。十念授け、おはしませ。」
 ワキ「十念をば、授け申すべし。それにつけても、おことは誰ぞ。」
 シテ「眞は我は、敦盛の。所縁の者にて候なり。」

ワキ「ゆかりと聞けばなつかしやと。掌を合はせて南無阿弥陀仏。」
 ツレ「若我成仏十方世界。念仏衆生摂取不捨。」

地謡「捨てさせ給ふなよ。一聲だにも足りぬべきに。毎日毎夜のお弔ひ。あらありがたや我が名をば。申さずとても明暮に。向ひて回向し給へる。その名は我と言ひ捨てて姿も見えず。失せにけり姿も見えず失せにけり。」

中人

狂言「斯様に候者は、津の国、須磨の浦に住まいする者にて候。今日は浦に出で、心を慰まばやと存ずる。いや。これに見慣れ申さぬお僧の御座候が、何處より何方へ御通りあらば、何とてこの所に御座候よ。」

ワキ「御不審尤もにて候。これは熊谷の二郎直實出家し蓮生法師にて候。」

狂言「さては古源平合戦の折、無官の太夫敦盛を御討ち成されたる、熊谷殿にて候か。」

ワキ「かようの姿となり諸国を巡り候も。敦盛の御菩提のために候。」

狂言「左様に候わば、暫く御逗留なされ、敦盛の御跡をも懇ろに御弔い、御通りあれかしと存じ候。」

ワキ「我等も左様に存じ候間、暫く御逗留申し、敦盛の御跡を弔ひ申そふずるにて候。」

狂言「また御用のこと候はば、重ねて仰せ候へ。」

ワキ「頼み申し候。」狂言「心得申して候。」

ワキ「磯枕。苔の衣を片敷きて。苔の衣を片敷きて。岩根の床に夜もすがら。念仏申し敦盛の。菩提を深く弔はん菩提を深く弔はん。」

シテ「いかに蓮生。敦盛こそ参りて候へ。さても如月六日の夜にも、なりしかば。にて候経盛、我等を集め。今様を謡ひ舞ひ遊びしに。」

ワキ「さてはその夜の御遊びなりけり城の内に。さも面白き笛の音の。寄手の陣まで聞えしは。」

シテ「それこそさしも、敦盛が。最期まで持ちし、笛竹の。」

ワキ「音も一節を謡ひ遊ぶ。」

シテ「今様朗詠。」ワキ「聲々に。」

地謡「拍子を揃へ聲をあげ。」

中之舞

シテ「さる程に。御船を始めて。」

地謡「一門みなみな船に浮かめば乗り後れじと。汀にうち寄れば。御座舟も兵船も遙かに延びたまふ。」

シテ「せん方波に駒を控へ。呆れ果てたる有様なり。かかりける處に。」

地謡「後より。熊谷の次郎直實。遁さじと。追つ駈けたり敦盛も。馬引き返し。波の打物抜いて。二打三打は打つぞと見えしが馬の上にて引つ組んで。波打際に。落ち重なつて。終に。討たれて失せし身の。因果はめぐり逢ひたり敵はこれぞと討たんとするに。仇をば恩にて。法事の念仏して弔はるれば。終には共に。生まるべき同じ蓮の蓮生法師。敵にてはなかりけり跡弔ひて。賜び給へ跡とむらひて賜び給へ。」

(おわり)



登場人物				
草刈男	草刈男	草刈男	草刈男	草刈男
草刈男	草刈男	草刈男	草刈男	草刈男



プログラム

のう あつもり きょうげん かきやまぶし
能「敦盛」と狂言「柿山伏」

[1部]

1. 始まりのご挨拶とお話
2. 狂言「柿山伏」実演
3. 囃子「翔」実演
4. 囃子のリズムに合わせて校歌斉唱
5. 囃子の説明と小鼓体験
6. 狂言「三番三」実演

きゅうけい ふん がっこう きゅうけいじかん
～休憩 5分～ (学校の休憩時間にあわせて)

[2部]

1. 舞発表
 2. 能「敦盛」実演
 3. 質問と終わりのご挨拶
- こうえんじかん きゅうけいじかん ふく ふん
(公演時間：休憩時間を含め 95分)

あらすじ

きょうげん かきやまぶし
狂言「柿山伏」
しゅぎょう お ごきょう かえ やまぶし くふく とちゅう かき き のぼ み た み かき き も めし
修行を終え故郷に帰る山伏は、空腹のあまり途中にある柿の木に登り実を食べます。それを見た柿の木の持ち主は
やまぶし やまぶし かき き お かき き も めし かえ つづ とうじつ たの
山伏をからかい、山伏は柿の木から落ち、けがを！柿の木の持ち主が帰ろうとすると…(続きは当日のお楽しみに)
のう あつもり
能「敦盛」
しゅつけ くまがえの じろう なおざね じしん う と たいらのあつもり ほだい とむら すま げんざい ひょうごけんこう べし いち のたに おとず
出家した熊谷次郎直実が、自身が討ち取った平敦盛の菩提を弔おうと須磨(現在の兵庫県神戸市)の一ノ谷を訪れる。
ふえ ね き にん おとこ あらわ
すると、笛の音が聞こえ、4人の男が現れて…

出演者

シテ方／井上裕久 井上裕之真 吉浪寿晃 寺澤幸祐 浦部幸裕
よしだ あつし よしだ あつし こ かわむら こうたろう てらさわ たくみ よしだ かずし
吉田篤史 鷲尾世志子 河村浩太郎 寺澤拓海 吉田和史

ワキ方／岡亮
はやし しかた ぎ こう やす ひろ ふえ ひさ だ や す こ こ つづみ いし い かげ ゆき おおつづみ
囃子方／左鴻泰弘(笛) 久田陽春子(小鼓) 石井景之(大鼓)

狂言方／島田洋海 井口竜也



シテ方…	主役だけでなく謡を謡う地謡や雑用全般と監督的な意味合いを持つ後見も行う
ワキ方…	主役に対して現代でいうワキ役に近い意味合いのある配役
囃子方…	笛、小鼓、大鼓、太鼓と能で使う楽器を扱う
狂言方…	狂言で出演するだけでなく、能においても物語を説明したり盛り上げたりする間狂言として出演する

プロフィール

いっばんざいだんほうじん のうがくどう かしょうかく
一般財団法人 能楽堂 嘉祥閣

のうがくどう かしょうかく きょうとご しょ ちか
能楽堂嘉祥閣は京都御所のすぐ近く、
きょうとご しょ なか のうがくどう
京都市の真ん中にある能楽堂です。
しやうわ ねん ねん いじやう
昭和35年より50年以上にわたって
のうがく こうえん がっこう む
能楽の公演や学校向けのワークショップ
をおこな
を行っています。

ウェブサイト <https://www.kashokaku.jp>
ブログ <https://ameblo.jp/kashokaku/>



まえ シテを務める
井上裕之真より
皆様へ！

みなさま
皆様こんにちは！井上裕之真です！
わたし さいに こころ のうがくご ぶたい た さいのうがくご ぶたい
私は3歳の頃から能楽の舞台に立ち、今日まで能楽を続けて来ました。
稽古や本番があるので学校を休んだり、遊びに行けなかったことも何度もあります。
それでも不思議と舞台に立つ事が嫌になった事はありません。
頑張って覚えて稽古をすれば、その分成長を実感する事が出来たからです。
今日は私を含めた演者全員の努力の集大成を楽しんで貰えればと思います。
ただ単純に、何か一つでも「すごい！」と感じて貰えれば嬉しいです！
今日をキッカケに能楽に興味を持ってください！